

議 員 総 会 会 議 録

日時：令和3年3月3日（水）

場所：全員協議会室

午後 4時20分 開会

午後 4時54分 閉会

○沢田清議長：議員総会を行います。今朝、半田病院より、資料として配付されています「半田病院職員の新型コロナウイルス感染について（報告2）」という報告書が届きました。通常ですと議長として報告を受けた後に、議員の皆様には写しをメールで送付し、情報提供をさせていただいているところですが、内容を鑑み、私の判断で急遽議員総会を開き病院から説明をしていただくことにしましたのでご理解いただきますようお願いいたします。

それでは、議題1.「半田病院職員の新型コロナウイルス感染について」を議題とします。

○石田義博病院長：このたびは、半田病院に入院されております患者様と病院職員に多数の新型コロナウイルス感染者を出してしまいましたことに対しまして、多大なるご心配とご不便をおかけすることになってしまいました。このことに対しまして深くお詫びを申し上げます。感染対策について、より一層の強化を図り、早期の収束に向けて取り組んで参ります。それでは、今回の事案についてご説明申し上げます。

○坂元照幸管理課長：資料に基づき説明

○沢田清議長：説明は終わりました。これについて何か御質疑ありませんか。

○坂井美穂議員：今回、呼吸器内科の患者さんが感染されたということで、症状として、無症状、軽症など（資料に記載がないため）どのような症状であるのか教えてください。

○石田義博病院長：今の状況ですが、つい先ほどの（院内）会議で共有した情報では、軽症が10名、中等症が10名、重症が1名と報告を受けています。

○坂井美穂議員：重症の患者さんは、感染以前にも呼吸器の疾患により入院をされていたということで、感染により症状が悪化したわけではないということでしょうか、それとも感染により重症化されてしまったのでしょうか。

○石田義博病院長：私が、その方の詳しい病状を確認できてはいないのですが、病棟の看護課長から受けた報告ではコロナにより重症化した可能性が高いように考えられるとのことでした。

○渡邊昭司議員：病棟から患者さんを移動させないということですが、（重症化してエクモの対応が必要となった場合）半田病院ではエクモの対応は可能でしょうか。

○石田義博病院長：エクモとして使用できる人工心肺装置は当院では2台保有していますので対応はできるのですが、エクモの使用は施術者が相当のトレーニングが必要であり、今まで当院は人工心肺装置として手術時に使用していますが、エクモとしての使用はしておりませんので、実際にエクモでの対応が必要になった場合には呼吸器内科の医師としては、大学病院への転院の判断をするであろうと考えられます。

○岩田玲子議員：PCR検査の結果、陰性であった方も継続して7A病棟で入院されるとのこ

とですが。今後、その方たちが感染しないようにどのような対策を取られるのか、また、感染となった方から狭い病棟内で感染が広がる恐れがあると思うのですが、今はどのようにされているのかを教えてください。

○石田義博病院長：7A 病棟については、コホート化と言いますか、陽性の患者様をできるだけ同じところに集めることとしていますが、現在、患者数が充分減っていないため全ての区分けができていない状況です。手指衛生などの感染対策をより徹底し、陰性の方に感染しないように務めることとしています。5A に移られた方も同様で、陽性が確認され病室等の配慮と改めての感染対策を徹底して行っておりますので、今のところは周囲への感染は確認されておられません。

○新美保博議員：今（岩田玲子議員の質問）の関連になると思いますが、7A 病棟の患者総数は何人ですか。

○坂元照幸管理課長：39名です。

○新美保博議員：入院患者39名に対しPCR検査を実施し、うち20名が陽性、19名は陰性であったという理解でよいか。

○坂元照幸管理課長：その通りです。

○新美保博議員：職員は7名感染とのことだが、何人受けているのか等が不明だ。資料がわかりづらい。

○坂元照幸管理課長：当初は最初に要請確認されました7A 病棟看護師2名に関する職員21名を検査しています。その後、病棟全体への感染拡大が確認されたため、現在は病棟に出入りする医師、理学療法士や薬剤師、事業者まで検査の対象を拡大しています。

○新美保博議員：であるとする、今以上に陽性者が増える可能性があるということか。

○坂元照幸管理課長：その通りです。

○新美保博議員：議員への説明の後、テレビや新聞などで半田病院のクラスターとして大々的に報道されると思うがどうか。

○坂元照幸管理課長：本日、記者会見を行う予定です。

○新美保博議員：ニュースで流れた後、不安に感じた多くの市民から私たち議員は状況を聞かれることになる。知り得る限りの状況を伝え、市民を安心させてあげたいと思うが今の状況としては、今後7Aに入院されている陰性の患者さんの感染する可能性があり、5Aでも感染が広がる可能性があるということか。

○沢田清議長：その通りです。現在検査結果が出ていない方もあり、経過報告と理解してください。

○新美保博議員：そういった説明はされていない。きちんと説明してほしい。

○沢田清議長：管理課長、現在進行形の受検者も含めて可能な範囲で説明をしてください。

○坂元照幸管理課長：現在進行形の検査対象というのは7A 病棟に出入りした職員、事業者ですが100人規模となっていると思われます。現在、聞き取り調査中でして、出入りした日を聞き取り、聞き取った方から随時検査を行っています。精確な人数は今申し上げられませんが100人規模で検査を行っています。5A 病棟については、現在、どれくらいの規模で検査を行うかを今現在行っている聞き取り調査の結果で決定していきます。

○新美保博議員：PCR 検査は病院関係者の全てをできるものではないのか。

○石田義博病院長：(PCR 検査を)今は院内で行っています。1日70名ほどが院内で検査可能な人数の上限です。院内での検査は外部に出すよりも結果把握やその後の対応につ

いても早いものですから、院内での検査とし、優先順位をつけて、感染のリスクが高い方から行っています。全病院に検査を行うというのは委託も含め千人近い規模となるため能力的に難しいところであります。

○新美保博議員：1日70人できるのであれば15日程度でできるのではないかと。

○石田義博病院長：感染リスクの高い7A病棟の患者様や職員などについては、一度陰性であってもその後で陽性となる可能性があるため定期的に検査を行う必要があります。そのため、感染リスクの高い人を優先的に検査していきます。

○加藤美幸議員：聞き漏らしたのかもしれませんが、職員の方たちは病院にいますか、自宅待機されているのですか。

○坂元照幸管理課長：陽性となった職員は、陽性が確認された時点で自宅待機です。

○加藤美幸議員：陽性となった職員の濃厚接触者となる家族のPCR検査は行っていますか。

○坂元照幸管理課長：半田病院では行っていません。陽性者の濃厚接触者であれば、保健所の管轄となり、保健所が指定する医療機関等での検査となります。

○坂井美穂議員：先ほど（渡邊議員の質問で）重症化した場合は大学病院に転院することでした。半田病院自体が知多半島内で唯一の第三次救急病院として元々コロナ病床を2床準備されていたと思いますが、今回多くの患者さんがコロナに罹患されたということで、7A病棟の患者さんたちは元々呼吸器に疾患があり、病棟から出せないという状況で、このままアビガンの投与などを含めたコロナの治療を行っていくのか、それとも転院していくのか、またしばらく救急の治療が必要となった場合に防護服での治療が始まってくるかと思いますが、通常の医療行為に支障が生じてくることが懸念されます。その辺りはどのように考えていますか。

○石田義博病院長：まず、最初のご質問への回答については、エクモでの対応が必要となった場合には、大学病院への転院の判断になるであろうとお答えさせていただきました。例えば、80才を超えた方にエクモを使うかとする多分使わないと考えられます。若年者で体力があって救命が可能という場合にはエクモを使う判断もあるかと思いますがその場合は大学病院への転院ということにして、今重症の方がそうか、というかはまだわかりませんが、常滑市民病院は重症の患者病床を持っておりますので、常滑市民病院とは連携していますので、この方も場合によっては常滑市民病院に転院させる可能性はあります。残りの重症でない方たちについては半田病院で診ていく、ということです。それは、外に出すことで感染を拡大させる可能性がありますので、とにかく病棟を移動させない、中等症までは病棟内で治療を行っていくということです。治療の選択につきましては、呼吸器内科の医師がどう判断するかということになりますが、アビガンは一般的にはあまり使用されないと聞いています。その病状に応じて適切な治療を行ってまいります。明日になるかもしれませんが、常滑市民病院はこれまでも多くのコロナの患者さんの治療経験がありますので。そちらの医師からもアドバイスを受けながら患者さんの治療にあたっていきます。また、個人防護具についてですが、現在も感染患者さんの治療にはフルに着用しあっています。今のところは個人防護具に不足をきたしているということはありませんので、病棟内では対応する職員は着用しています。また、常滑市民病院に看護師を5人派遣し、感染症病棟で勤務してもらっていたのですが、1月いっぱい当院に帰ってきていますので、その人たちが病棟の経験を活かして病棟に入りまして一緒に治療に参加する。むこう（常滑市民病院の感染症病棟）での得た知識を活かして治療に参加することになって

います。

鈴木健一議員：7A は呼吸器内科病棟ということで、他の病棟と比較し、さらにコロナに対し注意が必要とされる病棟だと思います。であるとしたら、職員の皆さんは十分に注意し職務にあたっていたと思います。にも関わらず、ここで感染が拡大してしまったということは、他の病棟では7A より注意が劣っているのではないかとの懸念がされるのですが他の病棟で出ていないのは偶然拡がらなかったとしか考えられないでしょうか。

石田義博病院長：議員が言われるとおり、7A 病棟は感染症を多く扱いますので、職員の意識の高い病棟です。今回そこでこのようなことが起こってしまったことに我々も大変大きな衝撃を受けています。そのため、本日病院内で緊急事態宣言を出し、今回7A でこのようなことが起こった、他の病棟でもいつ起こってもおかしくない、今までの感染症対策が不十分であったということでもう一度基本から見直して徹底して感染対策を行うよう院内に伝えます。手指消毒用のアルコール消毒液の使用量で手指消毒をきちんと行っているかを測っているのですが、7A 病棟は行っていると判断する使用量であり、病院としてもきちんと対策を行っている7A 病棟で起こったことに大きな危機感を感じていますし、半田病院の感染症対策が不十分であったことの証拠にもなったと考えています。

鈴木健一議員：となりますと、世間で言われている感染症対策は全てやっていた中でこれからどのようにしていこうという対策、さらに打つ手があるのですか。

石田義博病院長：新たに何かという策はございません。個々の職員が患者様に接する時に手指衛生をしっかりと行う、また、電子カルテなどの環境に触れた後にしっかりと手指衛生を行う、休憩時に喋らずに捕食をしているか、と再度確認し徹底する他はないと考えています。

水野尚美議員：職員で陽性の場合は自宅待機との説明でしたが、感染経験のある方と話をした時に自宅での隔離が精神的につらかったと話されていました。そのあたりのケアはどう考えていますか。病院でフォローをしていただけるのでしょうか。

坂元照幸管理課長：管理をしていません。

【 「できないでしょう」との声あり 】

岩田玲子議員：入院患者さんで感染された方は年齢等、重症化しやすい方ではないかと考えられます。また、今現在、病棟内に多くの感染患者さんがいらっしゃって、この先、一時期に多くの方が重症化した場合に、慣れない治療でもあり、半田病院が機能するのか、コロナウイルス感染症への対応ができていくのか心配がされます。医師、看護師など人員の確保など、どのように考えていますか。

石田義博病院長：呼吸器内科につきましては、現在、救急、市内からの紹介などを止めて、新たな患者を受け入れないようにしています。4名の医師のうち、残念ながら1名が感染し、感染していない3名の医師で患者様の治療にあたっています。もし、もう1名感染してしまうことになれば、大学からの応援を要請することになると考えます。看護師については7A 病棟の看護師に加え他部署からの応援を入れて対応しています。状況によっては、常滑市民病院からも応援いただけると言っていると思います。

中川健一議員：半田市の医師会への応援要請が必要となるようなことはありますか。

石田義博病院長：半田市医師会につきましては、病院の入院患者様の管理は難しいかと

考えます。そのため、協力をお願いするとすれば、半田病院への患者様の紹介を他の病院に紹介いただくことをお願いするといったようなことで、それにつきましては既に要請を行っています。

沢田清議長：説明、質疑への対応ありがとうございました。今回、このような場を設けさせていただきましたのは、明日以降、この件が報道されると市民から議員の皆様には様々なお問い合わせがあることが予想されます。その場合に、議員から病院に直接連絡することは控えていただき、市議会事務局を通してお問い合わせいただきますようご協力をお願いします。

それでは、これにて議員総会を閉会します。

午後 4時54分 閉会